

6月議会  
定例会

今年度の藤里町の「米の生産の目安」は

2,212ト、404.39畝

6月議会定例会が6月14日から4日間にわたり開催され、上程された15案件について原案どおり可決されました。



行政報告

◆「白神山地ワイン」の  
プレス発表会について

6月1日に、清水岱のアルビオン白神研究所抽出研究棟において、「アルビオン白神研究所抽出研究棟・ALBION Shirakami Vineyard & Winery」及び「白神山地ワイン」のプレス発表会を、株式会社アルビオンと藤里町との共同で開催いたしました。経緯といたしましては、株式会社アル

ビオンが、10年ほど前から、藤里町で栽培するヤマ・ソービニオン（ヤマブドウとカベルネ・ソーヴィニヨンの交配種）を購入して、ブドウ由来の化粧品原料の研究を始められ、当初からの様々な植物と共に、化粧品原料の抽出・発酵技術の研究に日々取り組まれながら、抽出研究施設の整備を計画されておりました。

一方、ワインの製造・販売等に関する「果実酒等の製法品質表示基準」が、平成30年10月30日に改定され、以降、醸造所を所有していない藤里町が、従来使用していた地域名称である「白神山地」を示せないという事態に陥っております。

そこで、現状を株式会社アルビオンにご相談申し上げましたところ、計画されていた抽出研究施設にワイナリーを併設することで、藤里町への地域貢献と、一連の研究過程で発生するブドウ果汁を有効利用することができるとして、ワインの製造について、前向きなお考えをお示しいただいたことから、藤里町は、平成31年1月、地域を限定して規制の緩和を

国に求める、いわゆる「構造改革特区」を申請、酒類製造免許の要件の緩和を図ることについて承認され、その後、必要な準備を進めながら、今般の「白神山地ワイン」の復活に繋げることができたわけでございます。

当日は、これまでの取り組みを広くご支援いただいております。猿田和三秋田県副知事、秋田県産業集積課にご臨席いただき、また、猿田副知事からはご祝辞も頂戴し、幸いにも晴天に恵まれた中、報道各社を迎えて、抽出研究棟内の設備見学やワイン製造の経緯等を説明申し上げますとともに、試飲会を開催いたしました。

なお、ワインの販売につきましては、株式会社アルビオンが藤里町酒類販売者協会と契約され、現在は、主に町内の3事業所で取り扱われておりますことをお知らせ申し上げます。一連の報告とさせていただきます。

◆チャレンジデーについて

去る5月25日に開催されました「チャレンジデー2022」についてでありますが、本町も町民の皆様方に十分な新型

コロナウイルス感染症防止対策をお願いしながら9回目の参加となりました。

チャレンジデーに参加するにあたり、藤里町チャレンジデー実行委員の皆様からのご意見、ご協力をいただきながら、町民の健康増進への機運の醸成を図ることを主眼とした参加としたところ、結果として参加率全国トップの94.6%だった対戦相手である群馬県上野村には及ばなかったものの、本町は昨年より8.6%上回る73.5%で金メダルを獲得することができました。

呼びかけ運動や票の回収をしていただきました婦人会の皆様のお力添えもあり、全国的に参加率が低迷する中において、各団体活動や個人活動に多くの町民や町内に勤務している多数の方々にも参加いただきましたことは、大変意義のあることと捉えております。

また、各団体や企業の皆様のご協力と、町民の健康づくり、町づくりへの思いが形として示されたものであります。

ここに、対戦相手の上野村に敬意を表するとともに、ご協力いただきました町民の皆様、参加者の皆様方に改めてお礼を申し上げます。

◆農林業関係について

農業振興関係であります。稲作については、今冬の大雪により、用水路への土砂流入や山際の用水路に、法面からの倒木及び崩落による土砂流出が数箇所発生しておりましたが、用水使用時にはほぼ解決しており、5月10日前後から順調